

家庭系ごみの「一部有料化」と「戸別収集」
合言葉は、「分別・水切り・減量化～私にできる小さな一歩～」



燃やせるごみの組成分析調査結果と減量化のためにできること

環境課 ☎(235)4922

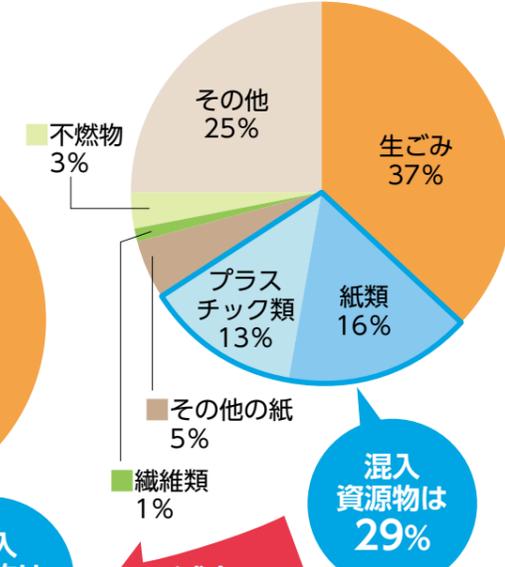
新たな制度開始後に燃やせるごみの組成分析調査を行いました。資源物の混入率は10%以下で、制度開始前の約30%に比べて分別の成果が表れた結果となりました。引き続き燃やせるごみの減量を推進するため、各家庭でできる取り組みを紹介します。

混入している資源物は減少傾向

燃やせるごみを無作為に抽出し中身を確認する組成分析調査は、燃やせるごみに含まれる資源物などの量や割合から分別状況を確認することができます。制度開始後の組成分析調査結果から、燃やせるごみの中の資源物の混入は減少傾向にあること

が分かりました。制度開始前の燃やせるごみの中には紙類16割、プラスチック類13割、合計29割の資源物が混入していましたが(円グラフ1)、制度開始後は紙類6割、プラスチック類2割、合計8割まで減少しました(円グラフ2)。資源物の分別と、燃やせるごみ減量への意識が高まっていることが分かります。

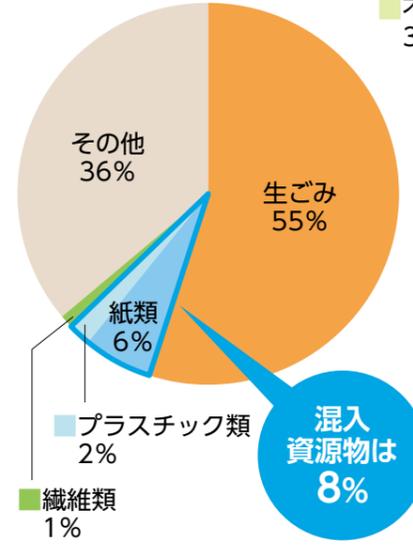
〔円グラフ1〕 制度開始前 (平成27年5月)



混入資源物は29%

減少

〔円グラフ2〕 制度開始後 (令和元年10月)



混入資源物は8%

資源物の分別などにより、10月～12月分の燃やせるごみの搬入量は、前年同期に比べて約1140トン、21・4割削減されています(グラフ1)。引き続き燃やせるごみ減量への協力をお願いします。

〔グラフ1〕 家庭系燃やせるごみ搬入量(10月～12月分)



燃やせるごみが減少意識の高まりは搬入量にも反映



もう一つの減量化作戦は生ごみを減らすこと

家庭でできる減量化への取り組みは資源物の分別のほかにもう一つ、生ごみの減量があります。食材を「使い切り」「食べ切り」、最後に「水切り」を心掛けましょう。

1 必要以上に買わない

- 冷蔵庫・冷凍庫の中を整理する
- 買い物に行く前に必要なものを確認する



2 無駄なく使う

- 適切に保存し、腐らせない
- 食材は切り落とす部分を少なくするなど、捨てる部分を減らす



3 料理は食べ切る

- 残った料理は冷凍を活用して早めに食べ切る
- 違う料理にリメイク



4 しっかり水切り

- 生ごみはできるだけぬらさない
- 生ごみは最後にぎゅっと絞る



生ごみ処理機活用で指定収集袋の節約へ

生ごみ処理機は、生ごみを「乾燥させる」「堆肥にする」ものです。生ごみ処理機を活用すれば排出する生ごみが軽くなり容積も小さくなるため、指定収集袋の節約にもなります。機種によりサイズや処理方法が異なります。ライフスタイルに合わせた生ごみ処理機を選びましょう。

購入費の4分の3を補助

税込み購入費に対し、「非電動式」上限2万円「電動式」上限5万円を補助します。
● 生ごみ処理機を購入する前に、直接または電話で環境課へ。予算の範囲内で先着順に受け付けます。

市内に事業所がある方へ

● 生ごみ処理機補助制度

事業所に生ごみ処理機を取り入れる場合も補助制度が利用できます。ぜひ活用してください。

● 事業活動のごみ処理は適正に

事業所のごみは、家庭用のごみ集積所に排出できません。収集運搬業者に依頼するなど、適正な処理をお願いします。

主な生ごみ処理機

※本体価格は参考価格です。補助額は100円未満切り捨て

生ごみが数時間でパリパリ・約5分の1に減量
「乾燥型生ごみ処理機」(電動式)

補助金活用で 7,500円に

本体価格 2万9,800円
維持費 電気代600円～800円程度/月



電気で生ごみを乾燥させる、屋内用の生ごみ処理機です。処理した生ごみは燃やせるごみに排出できるほか、堆肥のもとにもなります。

使い始めに入れる大量の黒土が生ごみを分解。土を追加することなく、使い続けることができます。



生ごみが消える・臭わない・虫が来ない
「海老名キエーロ」(非電動式)

補助金活用で 6,000円に

本体価格 2万4,000円 維持費不要

生ごみ処理機を展示中

毎月第3(木)～(土) 8時30分～17時15分(土は12時まで) 市役所 エントランスホール 他 市役所5階環境課前に展示